

Aquilion ONE部門 特別賞 (Impressive賞) 遊走脾

NTT東日本札幌病院 様

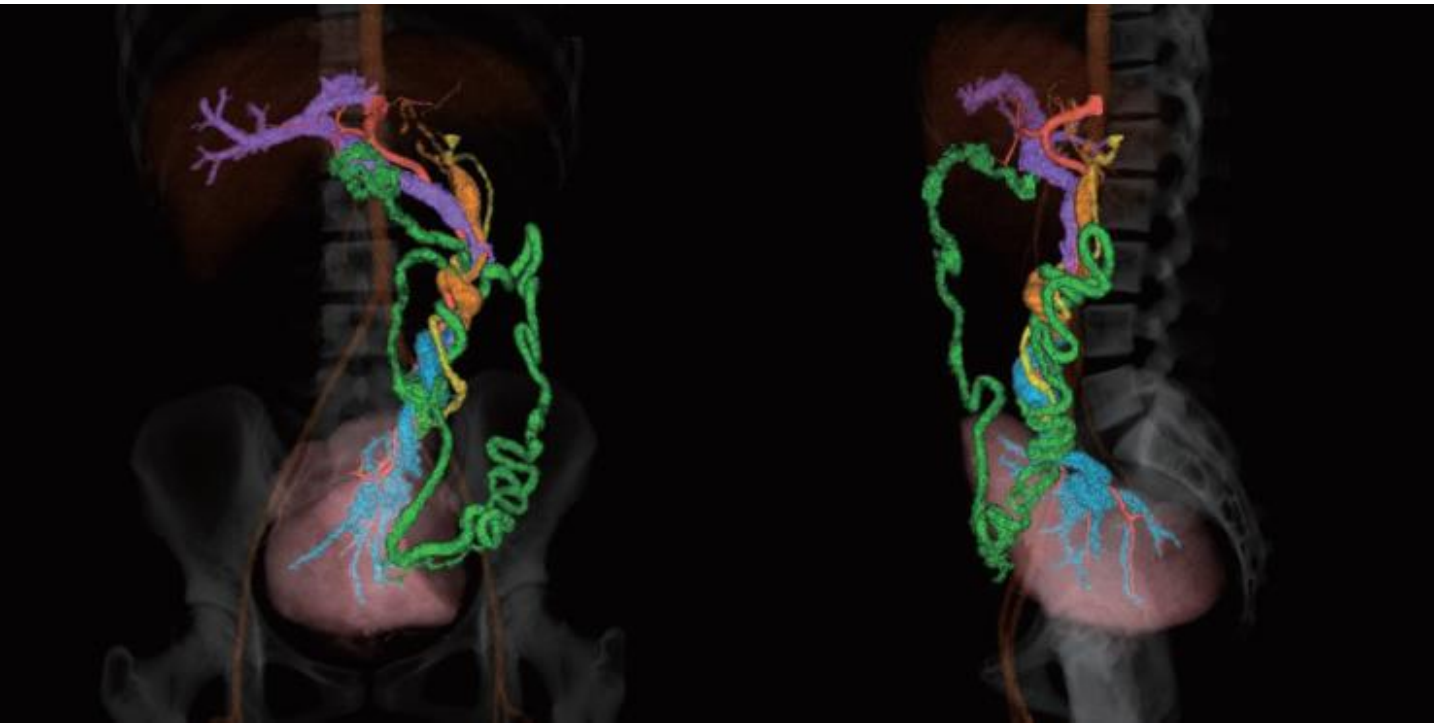
検査目的：産婦人科にて子宮癌検診で受診した際に下腹部に脾臓が認められた。この状態での妊娠は脾臓破裂を起こす可能性があると考えられたため、腹腔鏡下脾臓固定術の術前CTを施行した。

クリニカルコメント：脾臓は骨盤内に位置しており、脾動脈の周りにらせん状に脾静脈が走行していた。脾静脈の一部は短胃静脈や胃冠状静脈などの胃周囲の拡張した静脈に連続し、一部は側副血行路として大きく迂回して門脈へと続いていた。腹腔鏡下脾臓固定術ではCT画像を参考に脾臓を反時計回り3回転して捻転を解除した後、脾臓を左上腹部に移動し、腹膜、脾門部をメッシュによって固定を行った。術前に血管構造を把握するために今回のCT画像が有効であった。

テクニカルコメント：脾動脈と脾静脈のそれぞれの走行を評価するため、bolus trackingによって動脈早期相と門脈相を撮影した。年齢が20代であるため、線量を低減するためにSDは5mm厚において早期相で14に、門脈相で16に設定し、AIDR3D (standard) を使用した。さらに、prepの間隔を2秒間隔に設定した。また、スキャン方向を血流の方向に合わせるため、早期相は頭尾方向で、門脈相は尾頭方向で撮影した。Delay timeは早期相で25秒、門脈相で58秒だった。

審査員コメント：骨盤内の脾臓に連続する静脈、動脈が分離して描出されており、その特徴的な走行と相まってインパクトのある画像となっている。発生学的に興味深い症例。

使用装置	装置列数	撮影スライス厚	画像スライス厚	再構成間隔	撮影時使用列数
Aquilion ONE (GS)	320	0.5mm	0.5mm	0.5mm	64
スキャンモード	管電圧	管電流	スキャン速度	撮影範囲	撮影時間
HelicalScan	120kV	V-EC使用、SD14 (画像スライス厚 5mm,50mA-560mA)	0.5s/rot	450mm	27sec
CTDI	DLP	画質オプション	再構成関数	Work Station	Real Prep
64.5mGy	1208.4mGy・cm	AIDR 3D(Standard)	FC13	VINCENT	使用(目視)
造影剤名	造影剤注入方法		造影プロトコル		
イオパミロン300			造影剤3.0mL/s(90mL)		



左：脾動静脈の正面のVR像。脾静脈が脾動脈に巻きつくように走行している様子が分かる。
右：左側面のVR像。